

棚田

佐渡の山腹には棚田が並び、美しい景色を作っています。またそれは、島に住む人々と多種多様な野生生物の両方に、恵みをもたらしてもいます。下から見ても、遠くに見える海と共に上から見ても、棚田は趣ある眺めを作ります。江戸時代（1603～1868）初期に起こったゴールドラッシュ期間には、日本中から佐渡へ人が渡りました。急成長した島の人口へ十分な食料を賄うため、山の斜面に棚田が設けられました。それらのうちいくつかは、現在も使用されています。

2008年に台風で棚田の一部が破壊された後、地元農家の人々は有機農業や伝統的な農耕技術への切り替えを選び、人工の化学薬品や殺虫剤の使用を止めました。それは、佐渡でかつて絶滅し1999年に再繁殖された、トキの生息地を守る活動の一環でした。年間を通してトキへ餌を供給できるよう、収穫後の田は水で満たされています。それにより、鳥たちは水中に住む昆虫を食べることができるからです。訪問客は棚田ツアーに参加し、島民と自然環境の両方のためになる農耕技術について学ぶことができます。棚田による調和、そしてトキに生活の場を与える多様な農業システムにより、佐渡島は2011年にジアス（GIAHS：世界農業遺産）へ登録されました。